

指扇小だより

教育目標 **やり抜く子の育成**

かしこく やさしく たくましく あたたく

2月号 令和7年1月31日 第11号

さいたま市立指扇小学校

〒331-0078

さいたま市西区西大宮1丁目49-6

電話 048-623-0133 FAX048-624-2200

【児童数】男子 425名 女子 447名 計 872名

実感すること ～プロの世界に触れて～

校長 引間 陽子

新聞やテレビのニュースで、米野球殿堂が1月21日、2025年の殿堂入り表彰者を発表し、大リーグのマリナーズなどで通算3089安打を記録したイチロー氏、マリナーズ球団会長付特別補佐兼インストラクターがアジア人で初めて選ばれたと報じた。日本出身野手のパイオニアとしてまた一つ、新境地を開いた。「地球上の一人も想像していなかったでしょう」と米シアトルで記者会見で答えるイチロー氏。そんな偉業を成し遂げたことに対して、殿堂に選ばれたことはキャリアの中でどこにランクインするかの記者の問いに、「プロ野球選手としての評価という意味では、比べるものがない。最も大きい物で最後になります。これ以上はないし、この後ももちろんない。トップのものではあるんだけど、過去に対する称賛。あくまでも今をどう生きるかということを考えていきたい」と。(51歳になる)現在もマリナーズで、現役選手と体を動かしている理由は?と聞かれると、「コーチという立場ではないけれども、まだ技術を実際に見せることができる。それを選手たちが見て理解する。耳で聞いて理解するのと、目で見て理解するのは全く次元が違う。元気なうちは続けていきたい。」とも。私には手の届かない出来事ではあるが、世界で活躍するイチロー氏の言葉「今をどう生きるか」や「技術を実際に見せること」など、大事だなと感じる考え方に触れた。

学校行事の一つ、各学年で実施された今年度の校外学習が全て終了した。

1月に実施された5年校外学習「武州中島紺屋」「首都圏外郭放水路」は、少し暖かい日差しのある中、染め物づくり体験や国の施設見学ができ、有意義な社会科見学となった。

武州中島紺屋では、発酵した染める液の匂いを感じたり、染める液の凍てつくような冷たさを味わったり、藍染め体験ができたことは、諸感覚を刺激されるいい経験となった。江戸時代に創業され、羽生市にある武州正藍染の伝統工芸を継承。藍染めのプロの世界に触れた。

次に訪れた首都圏外郭放水路は、水害から首都圏を守る防災施設で、春日部市の国道16号の地下約50mにある。その大きな治水効果に加え、巨大な柱が立ち並ぶ壮大な雰囲気がパルテノン神殿を彷彿とさせることから『防災地下神殿』と称されている。世界最大級の地下放水路を味わった。これまで稼働した際の最高記録は2015年9月の台風17、18号の際の約1900万㎡、東京ドーム約1.5杯分だったそうである。建設時は、最先端の土木技術を集結させ、工期13年のビックプロジェクトだった。これまた、土木のプロの世界が生み出した巨大施設を子どもたちはどう感じたか。

子どもたちが触れる世界は多岐に渡る。触れた経験を通して諸感覚が刺激を受けて何か実感する。実感が伴う経験が増えるといいと思う。プロの世界の魅力に触れて、すごさを実感するのも乙な経験である。実感が積み重なっていき、子どもたちの憧れや夢の世界も広がるといいと期待する。

引き続き、保護者の皆様、地域の皆様、御支援、御協力をお願いいたします。



5年校外学習 武州中島紺屋 首都圏外郭放水路